

概 況

1 畜種別取扱高

平成4年中の当市場における畜産物の総取扱高は、頭数51万2千頭、重量9万7千トン、金額1,057億円で、対前年比は頭数で6%減、重量で10%減、金額で12%減となった。畜種別にみると牛の取扱高は頭数13万4千頭、重量6万5千トン、金額892億円で、対前年比は頭数で2%減、重量で11%減、金額で14%減であった。

豚の取扱高は頭数37万7千頭、重量3万3千トン、金額166億円で、対前年比は頭数で7%減、重量で7%減、金額で4%減であった。(表1参照)

2 産地別取扱高

牛では頭数・重量は千葉が第1位、金額では栃木が第1位であった。1位から10位までは昨年と同順位であり9位の山形が頭数・重量・金額とも10%前後増加したほかは昨年並の取扱高に終わった。県別取扱高では、北海道の頭数、重量が前年比40%増となり15位となった。輸入部分肉は重量で44%、金額で49%と大きく減少したが、国内部分肉は重量で55%、金額で34%の増となった。

豚では岩手が頭数・重量・金額とも10%前後増加過去3年間1位だった千葉といれかわった。他県の取扱高では福島が頭数・重量・金額とも60%増加したほか、静岡が頭数・重量で32%増、金額で46%増となり順位を上げたのに比べ、新潟は70%以上も取扱高が減少した。(表1～2参照)

3 年間市況

牛の全国取引頭数は147万4千頭で対前年比3%増であり、このうち東京市場の取引頭数は13万4千頭で対前年比7%増であった。年間平均価格は1,358円で平成3年に比べ39円安と3%低くなっている。これを月別にみると、1月は1,466円と前年同月比41円高で始まり、2月は1,400円台を維持したが、3月より続落し6月は年間の最安値1,130円となった。7月には前月比221円高と大きく上昇し、10月まで1,300円台を維持し12月には前年同月比11円高の1,592円で終わった。

また豚の全国取引頭数は1,912万5千頭で対前年比4%減であり、このうち東京市場の取引頭数は37万7千頭で対前年比7%減であった。年間平均価格は502円で平成3年に比べ20円高と4%高くなった。これを月別にみると、1月は528円と前年同月比13円高で始まり、9月まで500円台を維持し、6月には前月比45円高の570円となり年間の最高値となった。10月に入り前月比100円安の431円となり11月にも続落して404円の年間最安値となった。12月には上昇して422円となったが前年同月比では61円安マイナス13%で終わった。